

第19回
昔を！

今を！今歌う会

春への讃歌 思いきり春の歌を
みんなで歌いましょう！！

おはなし・歌唱指導 酒井沃子 安田直弘
ピアノ 半澤尚美



2014年4月1日(火) 開演 14:00

アートフォーラムあざみ野 1階レクチャールーム

■ 主催 今歌う会実行委員会

プログラム

第一部 春の唄 あれこれ

- ・春の唄 作詞：野口雨情 作曲：草川信
- ・早春賦 作詞：吉丸一昌 作曲：中田章
- ・春一番 作詞・作曲：穂口雄右
- ・春なのに 作詞・作曲：中島みゆき
- ・春よ、来い 作詞・作曲：松任谷由実
- ・すみれの花咲くころ 作詞：白井鐵造 作曲：フランツ・デーレ
- ・花の街 作詞：江間章子 作曲：團伊玖磨
- ・花 作詞：土井晩翠 作曲：滝廉太郎
- ・春の歌メドレー ♪ 荒城の月～…～ 四季の歌～…～ 赤いスイートピー～
柿の木坂の歌～…～ どじょっこふなっこ～…

♪♪♪♪♪♪♪♪ 休 憩 ♪♪♪♪♪♪♪♪

第二部 “音楽で笑おう！” 声の不思議

- ・世界一高い声の持ち主
- ・世界一ロングトーンの持ち主
- ・世界一美声の持ち主



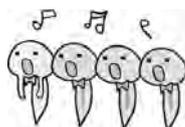
—講師：安田 直弘

第三部 お楽しみコーナー

- ◇ さくらによせて 酒井 沃子・安田 直弘
- ◇ まどみちお特集

♪ ぞうさん・やぎさんゆうびん・いちねんせいになったら
・ふしぎなポケット・つりかわさん・ドロップスのうた

第四部 皆様からいただいたリクエストのコーナー



♪ プログラムの進行上、曲順、曲目等が変更になることがあります。
あらかじめご了承ください。

エピソード

「早春賦」に寄せて…

この冬は何度も大雪が降ったりで大変厳しいものでした。

それだけに暖かい春の訪れはいつもの年よりもありがたみを実感いたします。

「早春賦」は1913年(大正2年)に発表された吉丸一昌作詞、中田章(中田喜直の父)作曲の日本の唱歌です。

この歌詞をもう一度よく読んでみると、結構むずかしい。

意味が分からない、あるいは勘違いしている部分があるかも知れないので、念のためおさらいをしてみました。

下記の左側が原詩、右側が現代のものに翻訳(?)したものです。

春は名のみ 風の寒さや
谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず
時にあらずと 声も立てず

春とは名ばかりの 風の寒さよ!
谷に住む鶯も 春の歌を歌いたいとは思うが
まだその時ではないと思って 声も立てない
まだその時ではないと思って 声も立てない

氷融け去り 葦は角ぐむ
さては時ぞと 思うあやにく
今日も昨日も 雪の空
今日も昨日も 雪の空

氷は融け去り 葦は芽をふくらませる
さあいよいよ春が来たかと思いきや 期待に反して
今日も昨日も 雪の空が続く
今日も昨日も 雪の空が続く

春と聞かねば 知らでありしを
聞けば急かる 胸の思いを
いかにせよとの この頃か
いかにせよとの この頃か

暦は春だと聞いていなければ 知らないでいたのに、
春と聞いたからつい待ち焦がれてしまう この胸の思いを
いったいどう晴らせという この時季なのだろうか
いったいどう晴らせという この時季なのだろうか

(参照 <http://www.2u.biglobe.ne.jp/~houmei/kasi/kakyoku.htm>)

この歌詞は作詞家の吉丸一昌が安曇野の地を訪れたおりに、大町市、安曇野あたりの早春の情景、そしてこの地の寒さ、遅い春を待つ人たちの切ない気持ちを歌ったものとされています。

「早春賦」の「賦」とは中国の韻文の文体の一種。

そして、詩や歌のこととか、詩を歌うという意味があるので、題名は「早春を歌う」というようなことになるのでしょうか。

2006年から2007年にかけて文化庁と日本PTA全国協議会が選定した「日本の歌百選」に選ばれているのも当然という名曲ですね。

ところで、この「早春賦」を聞くと、ついある別の曲を連想します。

それは「知床旅情」。

この曲は以前より、インターネット上で「盗作だ」、「真作だ」との論争が続いています。

ま～確かにメロディー等よく似ていますね。

同曲を作詞・作曲した森繁氏が「ゴーストライター」に依頼していないことを信じていますが…。

「早春賦」の歌碑は長野県安曇野市穂高にある、早春賦歌碑公園内、穂高川堤防沿いにあり、毎年4月29日の昭和の日には、「早春賦まつり」が開催されるそうです。



プロフィール

酒井 沃子 Yoko Sakai

東京藝術大学音楽部声楽科卒業。数々のコンサートの企画運営に情熱を注ぎ、既成概念を破る印象的なステージ創りを次々と実現させている。コーラス4団体の主宰をし、個性を持った何処にも無いグループとして育てている。平成15年設立された、NPO法人「65歳からのアトラライフ推進会議」では、理事長として、青葉区から発信する音楽イベントを実現させ、多方面から注目を浴びている。「昔を今を 今歌う会」では、主宰・指導者として、地域の音楽に貢献している。

安田 直弘 Naohiro Yasuda

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。卒業後、シャンソン、ポップス、ソウルバンド等、長年演奏活動を続ける。NHK レッツゴーヤングの歌唱指導等で高い評価を得る。現在、歌手・俳優へのヴォイストレーニングでも活躍中。東海大学、文化学院大学非常勤講師。

半澤 尚美 Naomi Hanzawa ピアノ

桐朋学園大学音楽学部ピアノ科卒業。ピアノを井口基成、森安芳樹、室内楽を岩崎 淑の各氏に師事。虎ノ門ホールにてデビューコンサート、県立音楽堂にて横浜弦楽四重奏団と競演。イタリア、シェナ夏期講習に参加。現在、昭和音楽大学および同大学付属音楽教室ピアノ講師として後進の指導にあたる。

スタッフ

- ・山本 桂子（事務局長）・丹羽 綾子（ステージコーディネータ）・坂野 義雄（事務・会場）
- ・藤本 裕（構成・プログラムデザイン） ・その他ボランティアの皆さん

☆ 次回（第20回）のご案内 ☆

・2014年 7月 16日（水）開演 14:00（開場 13:30）

・会場：あざみ野アートフォーラム

・お問い合わせ & リクエスト先：オフィスバルーン Tel. 045-902-7402
Fax. 045-901-9914
E-Mail. office_balloon@a00.itscom.net